

ボランティア

女性教育情報センターだより

2023.5.23 発行 国立女性教育会館情報ボランティア No.97

テーマ
展示

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

～妊娠・出産における女性の健康～ (2023年4月～6月)

今季のテーマ「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」は、「性と生殖に関する健康と権利」と訳され、女性の生涯を通じた健康にとって重要なものです。今回は妊娠・出産に着目し、女性の健康に関する資料を展示します。

カイロ行動計画から始まった

1994年のカイロ国際人口・開発会議 (ICPD)において「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の概念がはじめて公式に提唱された。すべての女性が安全な妊娠と出産が享受できること、新生児が健全な小児期を享受できること、性感染症の恐れなしに性的関係が持てることなどである。この概念は1995年の第4回世界女性会議 (北京会議) でエンパワーメントと共に確認され、世界中の女性たちを勇気づけた。

ジョイセフ <https://www.joicfp.or.jp/jpn/column/%E2%91%A3->



レイアウト担当のボランティア、みんなでワイワイとキャッチーなコピーを考える。「決めるのは私ってことよね」、「それだ!」というわけでこんなかたちになりました。

日本での取り組み

日本では、2000年の第1次男女共同参画基本計画で、リプロダクティブ・ヘルス/ライツという概念が女性の人権の重要な一つとして認識されるに至ったとし、その中心課題として「いつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由、安全で満足のある性生活、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことなど」を挙げている。こうした視点から女性の生涯を通じた健康を支援するための総合的な対策の推進を図ることが必要であると強調した。

2020年策定の第5次基本計画においても「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利) の視点が殊に重要である」としている。



(内閣府男女共同参画局 https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans)

今号の内容

- ★リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- ★読んでみました。『日本の中絶』
- ★高校生が取り組む「中学生への性の出前授業」を終えて
- ★災害文庫～開設から4年目へ～
- ★編集後記

リプロダクティブ・ヘルス

性や妊娠・出産など生殖に関わるすべてにおいて、病気がないだけでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態であること。人々が安全で満ち足りた性生活を営むことができること。

北京行動綱領、SDGsにも継承され、ジェンダー平等実現のための指針の一つとなっている。



リプロダクティブ・ライツ

産むか産まないか、子どもの数、出産時期などを責任をもって自由に決定でき、そのための情報と手段を得ることができるという権利、差別、強制、暴力を受けることなく、生殖に関する決定を行える権利も含まれる。

※参考文献 アジア人口・開発協会「国際人口・開発会議行動計画要旨」 https://www.apda.jp/pdf/p05_resource/resource_series_1995_2_jp.pdf
第4回世界女性会議 行動綱領（総理府仮訳） https://www.gender.go.jp/international/int_norm/int_4th_kodo/chapter4-C.html
藤掛洋子「人口問題に関する国際会議の論点・分析」 <https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/11692308.pdf>

すすむ SRHR の取り組み

近年、セクシュアル・ライツを加えて「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(SRHR) とする動きが広まっており、日本でも外務省はこの動きに沿った政策を行っている。例えば「女性・平和・安全保障に関する第2次行動計画(2019-2022)」では人道・復興支援の重点課題への具体策として女性・女児等のセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRHR)を確保し、性暴力サバイバーへの対応や緊急産科・新生児ケア等救命サービス等緊急時初期対応に必要なリプロダクティブ・ヘルスサービスパッケージを実施。また、SRHRのために不可欠である男性・男児の協働も支援することを掲げている。

(外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000459524.pdf>)

読んで
みました。

日本の中絶 塚原久美著 2022年 筑摩書房



一読して現在の日本の中絶をめぐる状況は驚くほど世界の趨勢とかけ離れていることが分かった。ページをめくるごとに新たな“びっくり”に出会う。読んでいて何度「信じられない!」とつぶやいたことか。とくにびっくりした話を3つあげる。

1 日本の中絶法は時代遅れ 日本の中絶は6割以上で掻爬法が使われている。

WHOのガイドライン「安全な中絶:2012」では「D&C(掻爬法)は廃れた方法であり、中絶薬や吸引など安全な方法に置き換えるべき」、2022年版ではついに「D&Cは使用しないこと」とされた。(本書p.49)

2 中絶を決めるのは医師 「人口妊娠中絶は患者の求めに応じて行うものではなく、中絶の適応があると指定医師が判定した場合にのみ行うべき」(日本産婦人科医会「会員必携」2019年:下線筆者)。海外では早期の妊娠中絶については「オンデマンド(要求があり次第)」が広く導入されている。(本書p.68)

3 どうしてこんなに高いのか! 日本の妊娠初期の中絶費用は10万円から数十万円。英、仏では保険が適用され実質無料。経口中絶薬の世界の平均卸売価格は700円台(WHOによる)だが、日本では、(認可された場合)入院して医師の管理のもとで服用させ、費用は従来の中絶手術と同等

(10万円程度)とすると産婦人科医会が発表。国際産婦人科連合では遠隔医療による自己管理中絶を「プライバシーも守れる優れた方法」として推奨している。(本書p.194.197)

[yk]



前96号*で取り上げた筑波大学附属坂戸高校 = 筑坂 = 2年生(現3年生)3名のチーム **HUG** は、昨年11月、いよいよ中学校での出前授業に臨んだ。年度初めから取り組んできたT-GAP (Tsukusaka Global Action Program) の**集大成**ともいえる社会課題解決のための**“アクション”**は、産婦人科医・高橋幸子先生による、中学3年生対象の性教育講演会の冒頭部分約20分を使って実施された。

* <http://id.nii.ac.jp/1243/00018973/>



シーン② HUG と中学校の先生

「自分たちが受けてきた性教育は不十分、中学生の時にきちんと知っておきたかった」という思いを共有する HUG のメンバーは、学校の先生や専門家より近い存在の自分たちだからこそ、身近な問題としてとらえてもらえる授業をしたいと考え、デート DV をテーマにした寸劇を披露した。

シーン① ファミレスでデート中のカップル:スマホをいじってばかりいる女性に男性が文句を言うと、女性は「いつもあなただって!」と逆ギレし、男性を殴ってしまう

<中学生が考える時間~少人数グループで話し合い発表>

シーン② 男性は、同性の友人とこの出来事について振り返る



進行役: HUG

中学生の皆さんは、出演者 (HUGと中学校の先生) の熱演を大いに楽しみ、考える時間では積極的に意見を述べてくれただけでなく、事後アンケートにも多くの感想を寄せてくれたとのことだ (例: わかりやすかった、こうならないように気を付けたい、話し合うことが大事、など)。HUGのメンバーは、昨年10月開催のT-GAPフェスタでの経験や中学校の先生からの提案などを参考に、中学生にウケつつ自分事として考えてもらえるようなシナリオ作りに苦心したそうだが、それが見事に功を奏したようだ。

T-GAPをやり終えた3人は、「様々な場での発表を通じ自分の思いを伝える力がついた (DMさん)」「みんなと話し合って考える力や表現する力がついた (IHさん)」「中学生に勉強だけでなく性について知ってほしいという純粋な思いを伝えることができた (MTさん)」と感じている。

筑坂では3年生は卒業研究に挑む。3人は各々、食育と地域、アートによるビジュアルコミュニケーション、日本史から紐解くジェンダー、といった性教育とは異なるテーマの探究を考えているとのことだが、「(HUGで伝えた) 思いを後輩たちに繋げていきたいと考えています」とMTさんは語っている。[af]

～取材を終えて～昨年10月より約半年にわたり、いつも快く取材に協力してくださった筑坂の生徒の皆さん、先生方に心よりお礼申し上げます。

HUGの活躍～中学校への出前授業だけじゃない!～

2022年11月 高校生国際ESDシンポジウムで発表 (オンライン)

ESD=Education for Sustainable Development「持続可能な開発のための教育」

2023年2月 全国総合学科研究大会で発表 @筑坂

2023年3月 SDGs Questみらい甲子園 首都圏大会 ファイナリスト

⇒ ファイナルセレモニー@浜離宮朝日ホールで

アクションアイデア優秀賞 (銀メダル相当) 受賞

取材当日(2/17)校内開催「性教育講座」でも HUG は導入部分を担当



写真提供: HUG/sm

NWEC 災害文庫 ～ 開設から 4 年目へ

女性教育情報センターの「NWEC災害文庫」は、防災や災害時・復興に不可欠な男女共同参画やジェンダー視点を伝えることを目的に2019年12月に開設された。当時、NWECボランティアは情報課・関森職員を取材し経緯などを伺ったが*、このたび同職員が『BIOCITY ビオシティ 93号』（企画監修 萩原なつ子NWEC理事長＋NWEC）に、「災害とジェンダー情報を残す、伝える「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」「NWEC災害文庫」から」を執筆したことを受け、改めて情報課に話を伺った。



BIOCITY 93号
2023年 ブックエンド

— 2019年12月の開設から、どのような変化がありましたか？

2023年4月12日現在、約850冊の資料を所蔵しています。そのうち、約90冊は、開設以後に刊行されたもので、『女性が変えた災害復興：男女共同参画と災害・復興ネットワークの10年』など、東日本大震災（2011年）から10年を振り返る資料が多く出されています。資料の増加を受けて棚を増設し、表紙を見せる展示やカードやカルタなどを配置して見せ方を工夫しています。

— どのように活用されてきたのですか？

- ・女性教育情報センターテーマ展示

「災害とジェンダー ～記録を未来へ生かす～」

開催期間：2021年10月～12月 <https://www.nwec.go.jp/event/center/disaster.html>

- ・NWEC パッケージ貸出サービス 2022年度

武蔵村山市男女共同参画センター、山梨県立男女共同参画推進センターぴゅあ峡南、国分寺市市民生活部人権平和課に貸出



— 今後の活用について期待されるのはどのようなことでしょうか？

被災体験や支援活動を災害の記録として伝えることは、課題や知恵を次世代に繋げるために欠かせません。特にジェンダー視点に立った記録は、広く共有されてこそ、これからの災害時、防災や復興の礎となります。このような資料や情報をさらに充実させ、提供・発信に努めていきます。

* 「ボランティア女性教育情報センターだより No.91」 「NWEC 災害文庫開設」 <http://id.nii.ac.jp/1243/00018881/>

その他関連資料

「NWEC 災害復興支援女性アーカイブ」：女性視点の活動記録 https://w-archive.nwec.go.jp/il/meta_pub/G0000337wd

「ボランティア女性教育情報センターだよりNo.92」 特集「災害時における女性に対する暴力を根絶するために」

<http://id.nii.ac.jp/1243/00018883/>

きれいに咲きました

環境整備担当のボランティアが季節ごとに植え替え、利用者の皆さまをお迎えします



本館正面玄関脇花壇 撮影 4月 af

編集後記

- ・女性を人口目標の道具にするなど国連人口基金。同感！ [yk]
- ・Z世代がジェンダー課題にはびこる「昭和」にピリオドを?! [af]
- ・ユースクリニックが次の注目ワードになるかも！ [sm]
- ・「決めるのは、私！」これに勝る言葉は思い付かない [yh]
- ・女性の心も身体も大切に考えられる世の中に [co]